

Watching 300ml bottles of alcohol
sold at convenience stores
in Tokyo/Osaka
Changes overview in 2 decades

@現在 + @10年前 + @20年前

チャーオ、シーナです。2006年5月号と2016年5月号で、「コンビニで買った300ml (±10%) のお酒」を取り上げました。ちょうど20年・10年が経過したので、同じ条件で東京と大阪のコンビニでお酒を購入、3つの時代で商品や価格を比較しました。消費税が5%→8%→10%であることを思うと、隔世の感アリ、ですね。近年は人件費・原材料費・物流費の上昇、円安もあって、特にこの10年の価格変化が大きいのがわかります。なお、ビール類やRTDの主流である350ml 缶は、「300ml±10%」の条件に当てはまらないので、サンプリング対象に含まれません。以下は、酒類ごとの観察記録です。

●清酒は堅調：300mlのお酒は清酒が一番多い。すべてがガラスびん製品。20年間変わらずコンビニに並ぶロングセラー商品もありますね。ちなみに、写真の清酒サンプルの単純平均価格は、2006年415円(11本)→2016年420円(13本)→2026年489円(13本)です。

●ビールは減少：20年前・10年前には、ガラスびん入りなど、300±30mlに該当する大手国産ビールがありました。今回は見当たりません。びん入りクラフトビールは330mlですが、一般的なコンビニでは販売していないようです。写真のパドワイザーなどは輸入ビールなので330mlです。

●焼酎は減少：20年前・10年前には、300mlの本格焼酎・泡盛がありました。今回は見当たりません。サンプリング地域が東京・大阪であることの影響かと思つて、九州・福岡のCVSでも見てもらいましたが、300±30mlの焼酎はなかったそうです。

●ウイスキー：現在、コンビニではウイスキーがとてもたくさん並んでいます。ただ、小容量品の多くは200ml、ハイボール缶は350mlなので、今回のサンプリング対象に含まれません。KAVALANのハイボール缶は台湾製で330mlなので収録。

●RTDも堅調：種類が多い。缶ではなくガラスびんを求める消費者が一定数いるようですね。

(layout & text : Sienna K. Emiri)

▼2026年5月現在 (消費税10%)

一酒類は食品の軽減税率8%の適用除外



10 years ago

▼2016年5月 (消費税8%)



20 years ago

▼2006年5月 (消費税5%)



●八海山：PP キャップからKT+KSに

●沢の鶴：359円→427円

●白鶴：352円→373円→431円

●ワンカップ 大関300：237円→264円

●国産大手ビールの300±30mlのガラスびん商品：消滅(350ml 缶に集約)

●輸入缶ビール：海外では(350ml でなく)330ml などで各種登場

●焼酎の300±30mlの商品：消滅(他の容量→200ml や720ml など→ばかりに)

●ワイン：ガラスびんからボトル缶にシフト

●ウイスキーの300±30mlのガラスびん商品：消滅(小容量は200ml ばかりに)

●スミノフアイス：242円→249円→260円

●なお、4点とも缶蓋の口径はすべて202、204と206は、いまや世界で日本だけ?